

令和6年度（2024年度） 区民意識意向調査報告書

< 概要版 >

練馬区では、区政課題に対する区民意識や意向を統計的にとらえ、今後の区政運営の基礎資料とすることを目的として、区民意識意向調査を毎年実施しています。

この冊子は、令和6年度に実施した調査結果の概要をお知らせするものです。

さらに詳しい調査結果については、区ホームページや区立図書館などで、調査報告書本編をご覧ください。



▲区ホームページ

【 調査の概要 】

- ①調査対象 …………… 区内在住の満18歳以上の3,000名
対象者は住民基本台帳から層化二段無作為抽出
- ②調査方法 …………… 郵送法（郵送配布・郵送回収）または
インターネット上の回答フォームでの回答
- ③調査期間 …………… 令和6年7月10日（水）～7月31日（水）
- ④回収状況 …………… 有効回収数 1,107 有効回収率 36.9%
- ⑤調査テーマ …………… 1 区の施策および評価について
2 防災について
3 都市農業・農地について

■ 数字の表示について

- (1) 図表中の「n」とは、その質問への回答者総数のことです。
- (2) 回答は、回答者総数を100%として算出し、小数点第2位を四捨五入しています。
このため、回答率の合計が100%にならない場合があります。
- (3) 複数回答の質問では、回答率の合計が100%を超える場合があります。

令和6年（2024年）12月

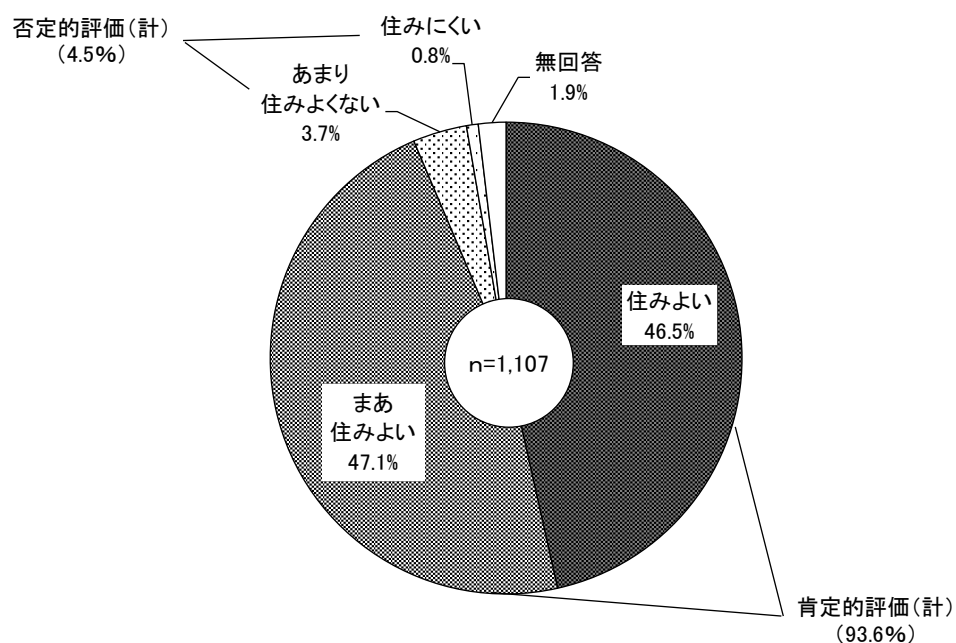
発行 練馬区区長室広聴広報課
東京都練馬区豊玉北6丁目12番1号
電話 03-5984-4501（ダイヤルイン）

1 区の施策および評価について

(1) 住みごち

◇『肯定的評価』が9割を超える

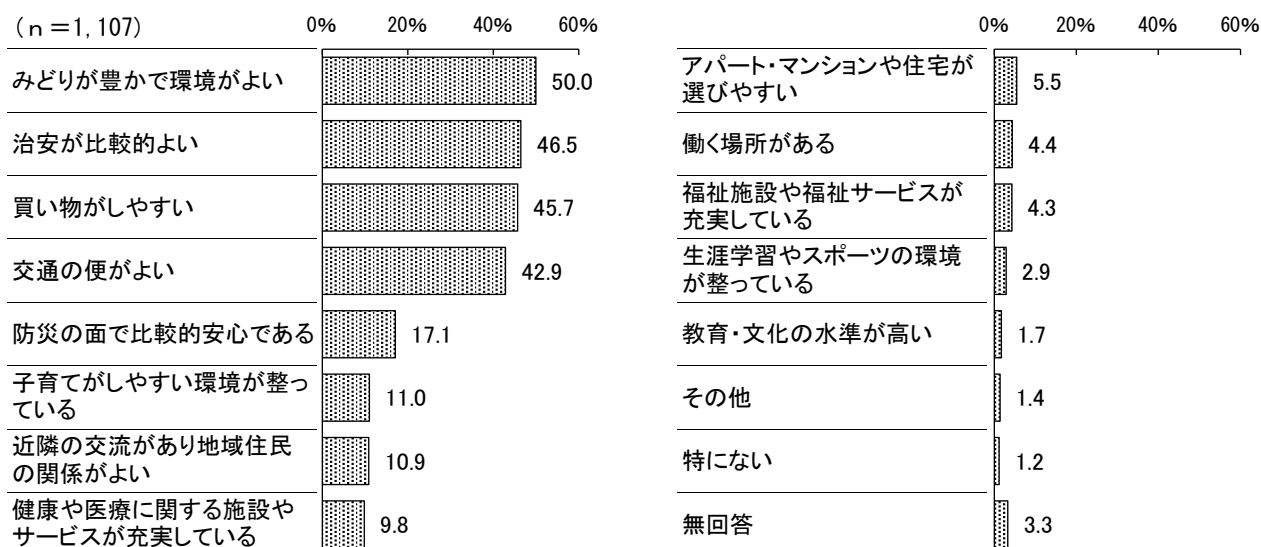
「住みよい」、「まあ住みよい」を合わせた『肯定的評価』（93.6%）が9割を超えている。一方、「あまり住みよくない」、「住みにくい」を合わせた『否定的評価』（4.5%）はわずかとなっている。



(2) 練馬区が住みよいと感じるところ

◇「みどりが豊かで環境がよい」が5割

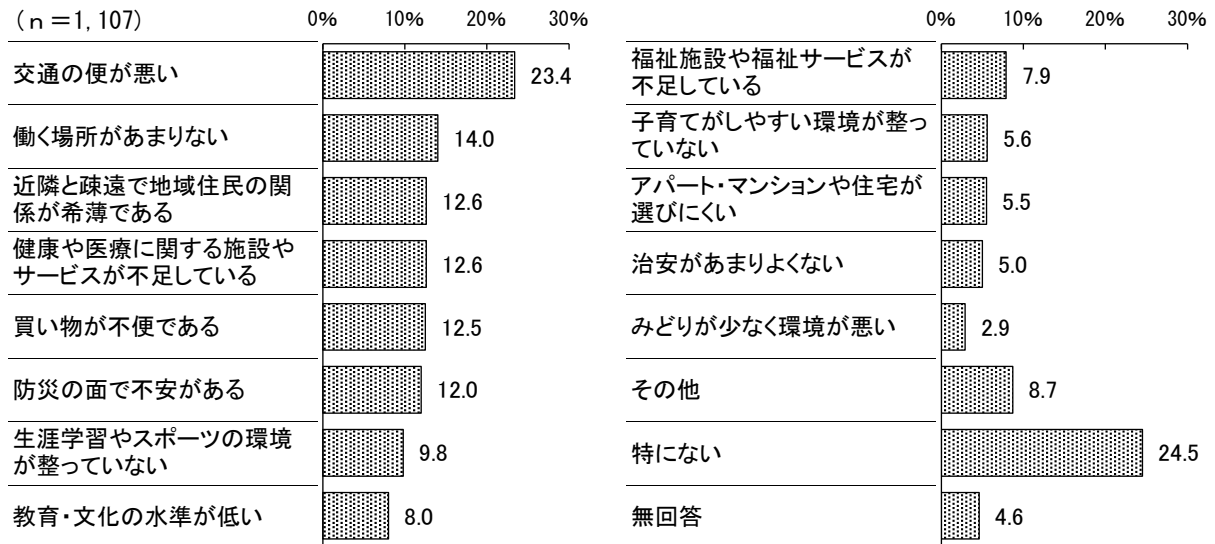
下記の選択肢から、練馬区が住みよいと感じるところを3つまで聞いたところ、「みどりが豊かで環境がよい」（50.0%）が5割と最も多く、次いで「治安が比較的よい」（46.5%）、「買い物がしやすい」（45.7%）、「交通の便がよい」（42.9%）、「防災の面で比較的安心である」（17.1%）などの順となっている。



(3) 練馬区が住みにくいと感ずるところ

◇「交通の便が悪い」が2割を超える

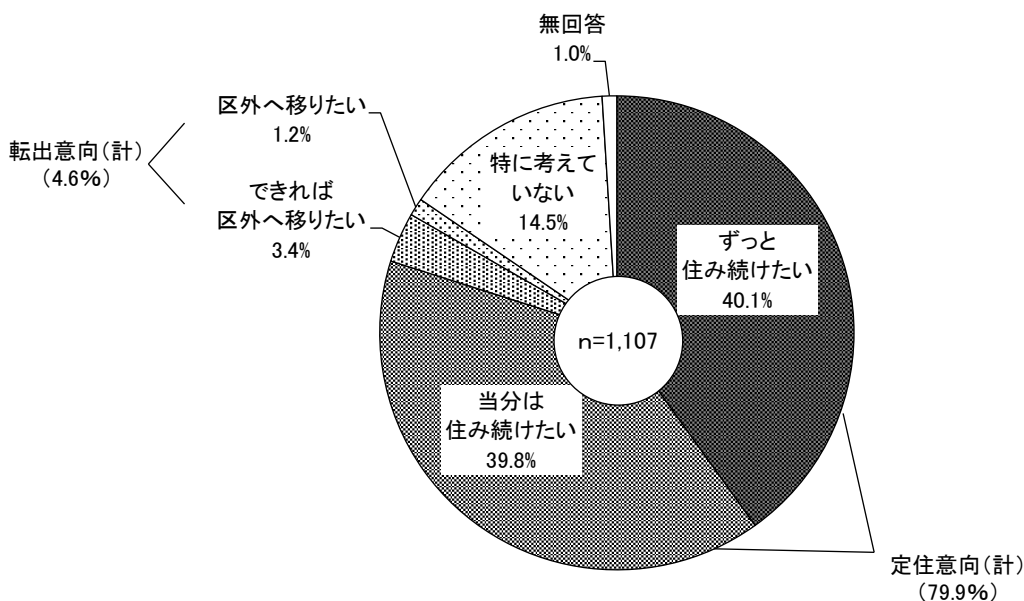
下記の選択肢から、練馬区が住みにくいと感ずるところを3つまで聞いたところ、「交通の便が悪い」(23.4%)が2割を超えて最も多く、次いで「働く場所があまりない」(14.0%)、「近隣と疎遠で地域住民の関係が希薄である」、「健康や医療に関する施設やサービスが不足している」(ともに12.6%)、「買い物に不便である」(12.5%)などの順となっている。



(4) 定住意向

◇『定住意向』が8割

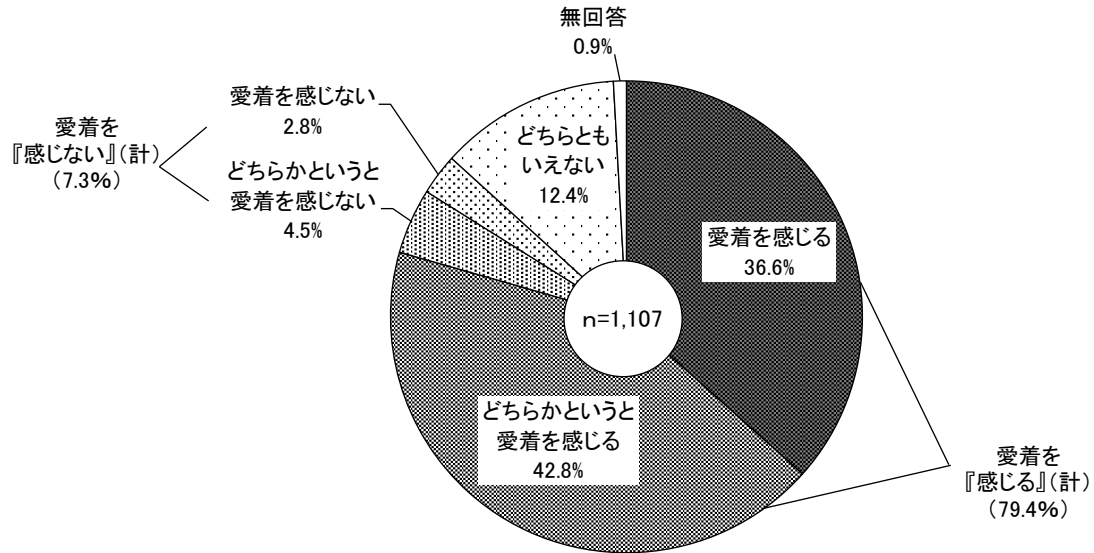
「ずっと住み続けたい」、「当分は住み続けたい」を合わせた『定住意向』(79.9%)が8割となっている。一方、「できれば区外へ移りたい」と「区外へ移りたい」を合わせた『転出意向』(4.6%)はわずかとなっている。



(5) 練馬区への愛着

◇愛着を『感じる』が約8割

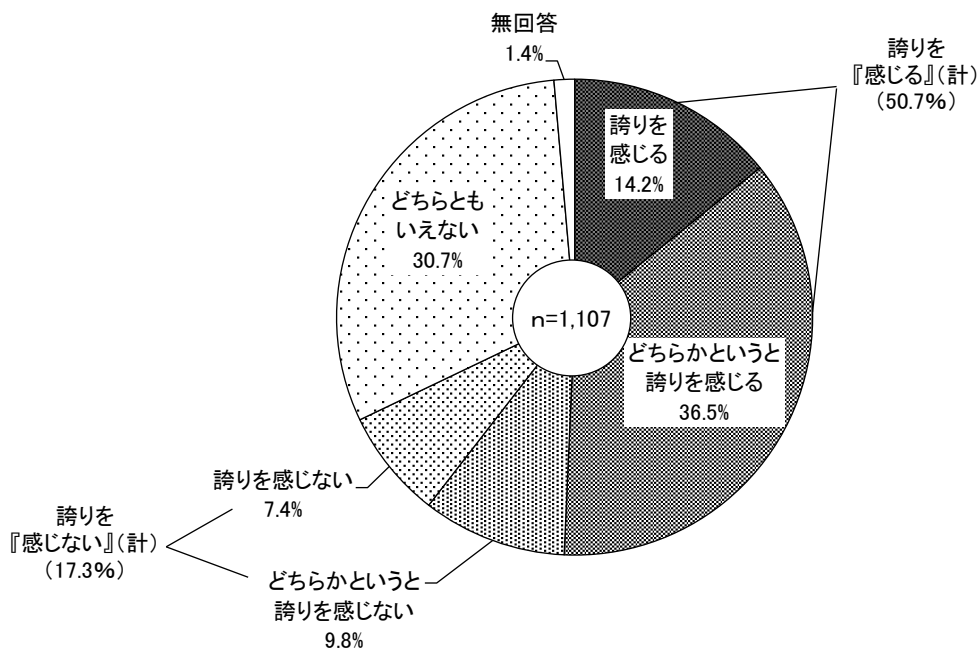
「愛着を感じる」、「どちらかというとな愛着を感じる」を合わせた、愛着を『感じる』(79.4%)が約8割となっている。一方、「どちらかというとな愛着を感じない」、「愛着を感じない」を合わせた、愛着を『感じない』(7.3%)は1割近くとなっている。



(6) 練馬区に対する誇り

◇誇りを『感じる』が約5割

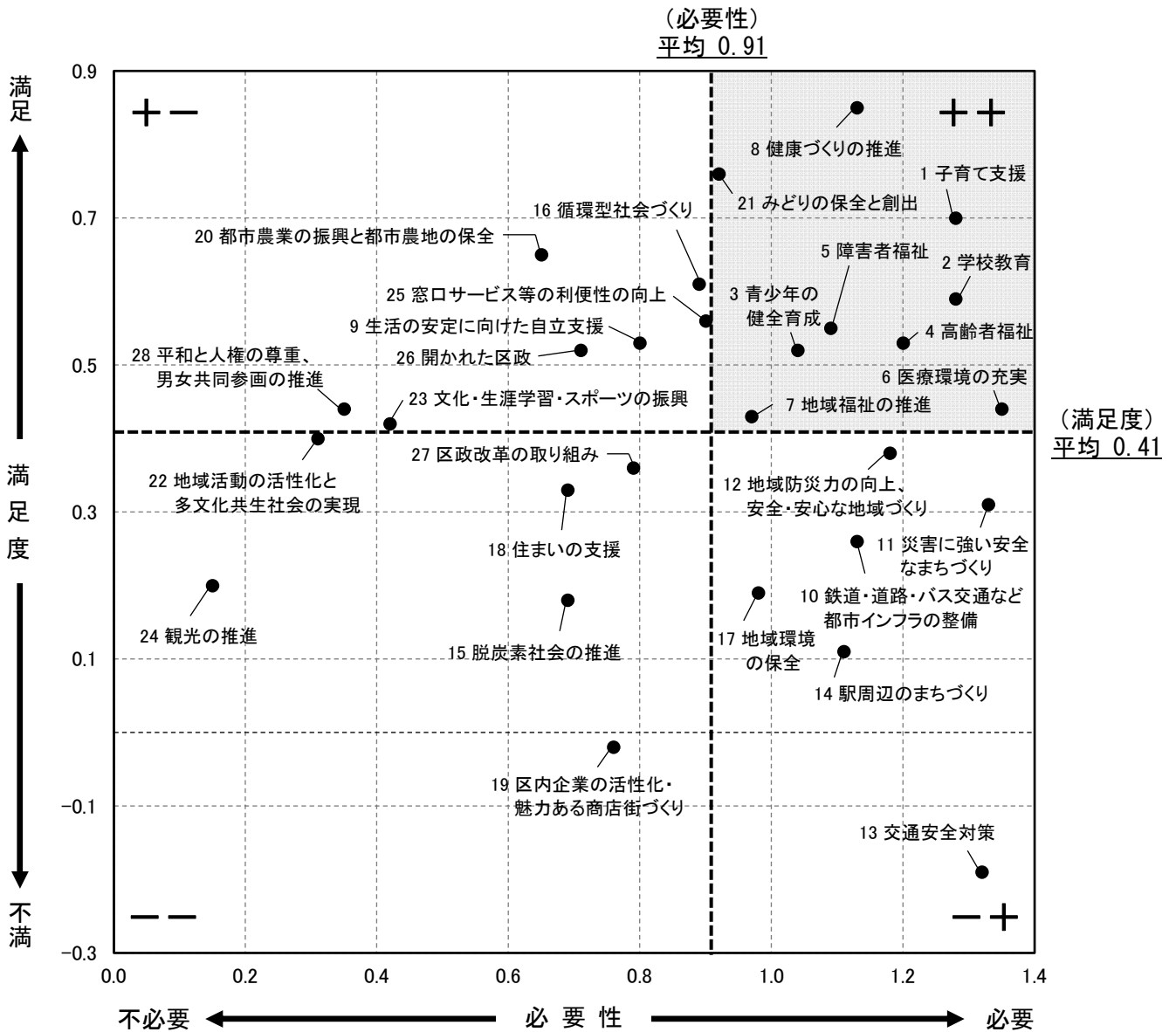
「誇りを感じる」、「どちらかというとな誇りを感じる」を合わせた、誇りを『感じる』(50.7%)が約5割となっている。一方、「どちらかというとな誇りを感じない」、「誇りを感じない」を合わせた、誇りを『感じない』(17.3%)は2割近くとなっている。



(7) 施策の満足度と必要性

区の様々な施策に対する満足度と必要性を4段階で伺い、各施策に対する区民の満足度と必要性の相関関係を図に示した。相関図上の位置が上であるほど満足度が高く、位置が右であるほど必要性が高いことを示す。

選択肢	満足度	満足	どちらかという満足	どちらかという不満	不満
	必要性	とても必要	必要	どちらかという必要	あまり必要でない
評価段階		最上位	上位	下位	最下位
評価点		+2	+1	-1	-2



◇満足度の高い施策は「健康づくりの推進」、必要性の高い施策は「医療環境の充実」

満足度も必要性も高い(++)：網かけ部分)のは、「健康づくりの推進」「子育て支援」「学校教育」「高齢者福祉」「障害者福祉」などである。満足度が低いが必要な性が高い(-+)のは、「交通安全対策」「駅周辺のまちづくり」「鉄道・道路・バス交通など都市インフラの整備」などである。

(8) 施策への要望

◇「鉄道・道路・バス交通など都市インフラの整備」が3割

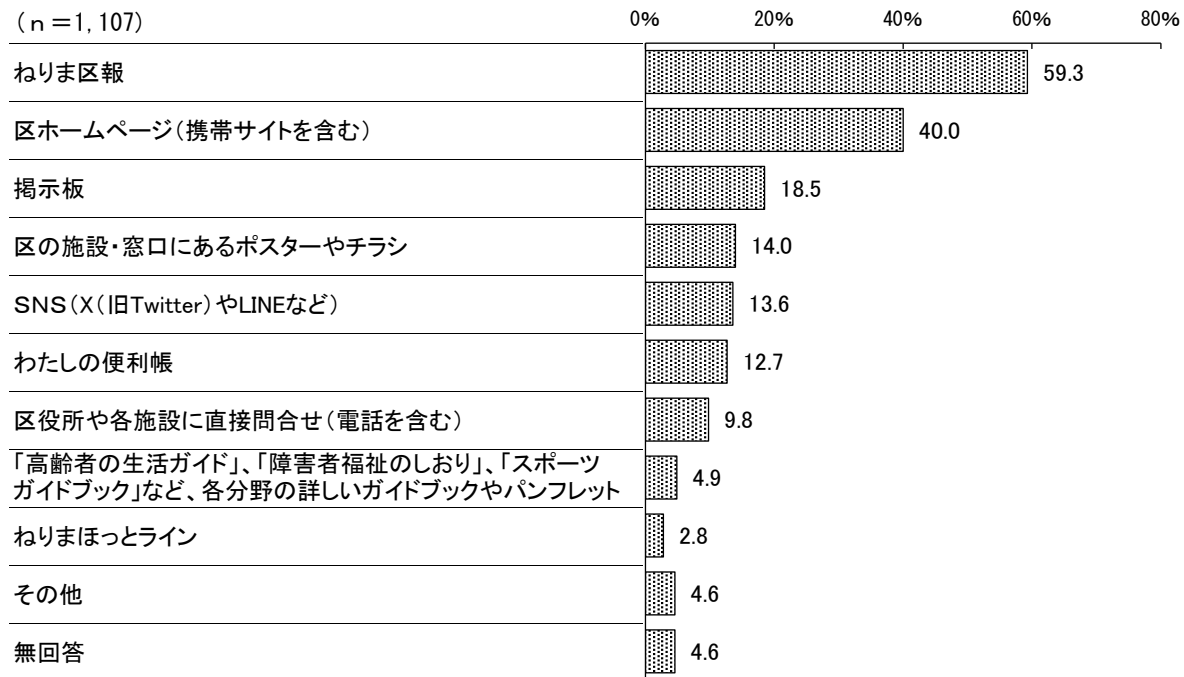
下表の選択肢から特に力を入れてほしい施策を第1位から第3位まで挙げてもらった。その3つを合わせた累計をみると、「鉄道・道路・バス交通など都市インフラの整備」(29.9%)が3割と最も多く、次いで「高齢者福祉」(21.1%)、「交通安全対策」(19.8%)、「子育て支援」(19.2%)、「学校教育」(16.6%)などの順となっている。



(9) 区政情報の入手先

◇「ねりま区報」が約6割

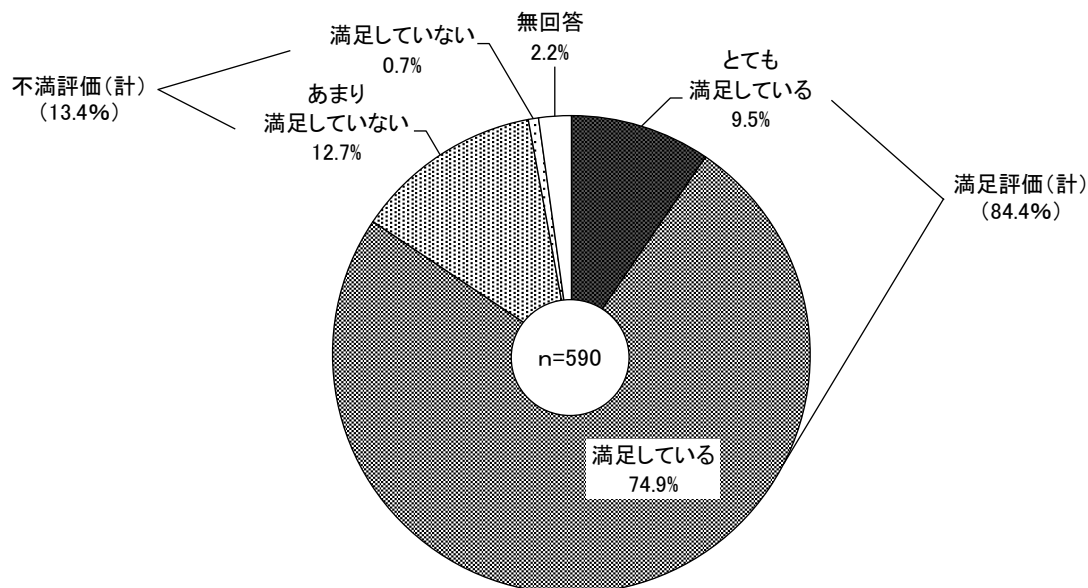
下記の選択肢から区政の情報を主に何から入手しているか3つまで聞いたところ、「ねりま区報」(59.3%)が約6割と最も多く、次いで「区ホームページ(携帯サイトを含む)」(40.0%)、「掲示板」(18.5%)、「区の施設・窓口にあるポスターやチラシ」(14.0%)などの順となっている。



(10) 『ねりま区報』の満足度

◇『満足評価』が8割半ば

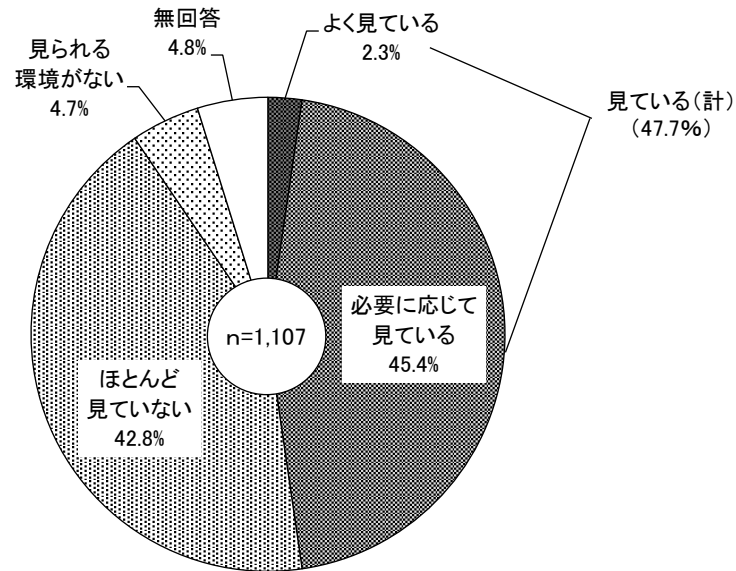
『ねりま区報』を「詳しく読んでいる」または「必要な記事は読んでいる」と答えた方(590人)に、『ねりま区報』にどの程度満足しているか聞いたところ、「とても満足している」(9.5%)と「満足している」(74.9%)を合わせた『満足評価』(84.4%)が8割半ばとなっている。



(11) 『区ホームページ』の閲覧状況

◇『見ている』が5割近く

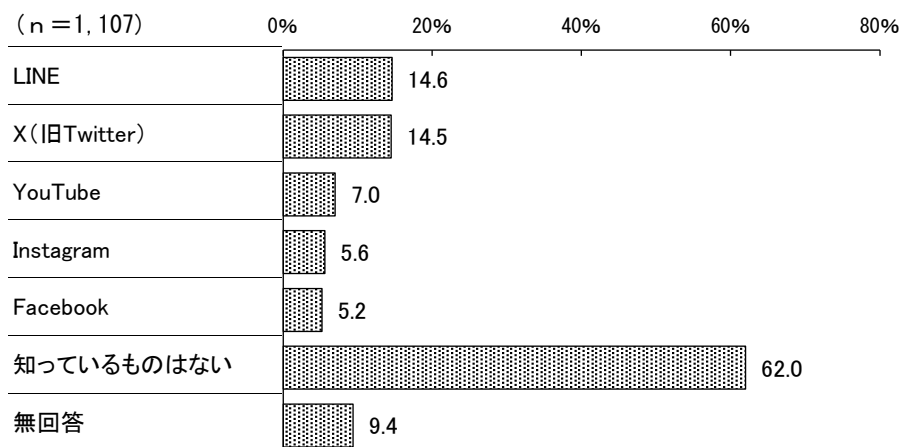
『区ホームページ』の閲覧状況を聞いたところ、「よく見ている」(2.3%)と「必要に応じて見ている」(45.4%)を合わせた、『見ている』(47.7%)が5割近くとなっている。一方、「ほとんど見ていない」(42.8%)は4割を超えている。また、「見られる環境がない」(4.7%)はわずかととなっている。



(12) 知っている練馬区公式SNSアカウント

◇「LINE」、「X(旧Twitter)」が1割半ば

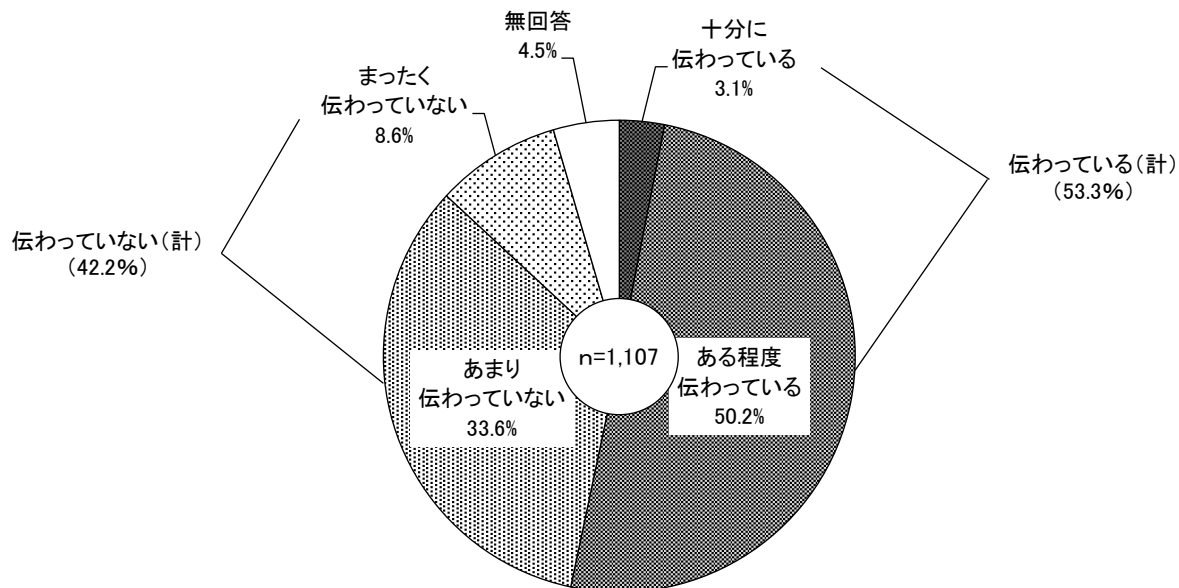
知っている練馬区公式SNSアカウントを聞いたところ、「LINE」(14.6%)が1割半ばと最も多く、次いで「X(旧Twitter)」(14.5%)、「YouTube」(7.0%)、「Instagram」(5.6%)などの順となっている。一方、「知っているものはない」(62.0%)は6割を超えている。



(13) 知りたい区政情報がどの程度伝わっているか

◇『伝わっている』が5割を超える

知りたい区政情報がどの程度伝わっているか聞いたところ、「十分に伝わっている」(3.1%)と「ある程度伝わっている」(50.2%)を合わせた、知りたい区政情報が『伝わっている』(53.3%)が5割を超えている。一方、「あまり伝わっていない」(33.6%)と「まったく伝わっていない」(8.6%)を合わせた、知りたい区政情報が『伝わっていない』(42.2%)は4割を超えている。

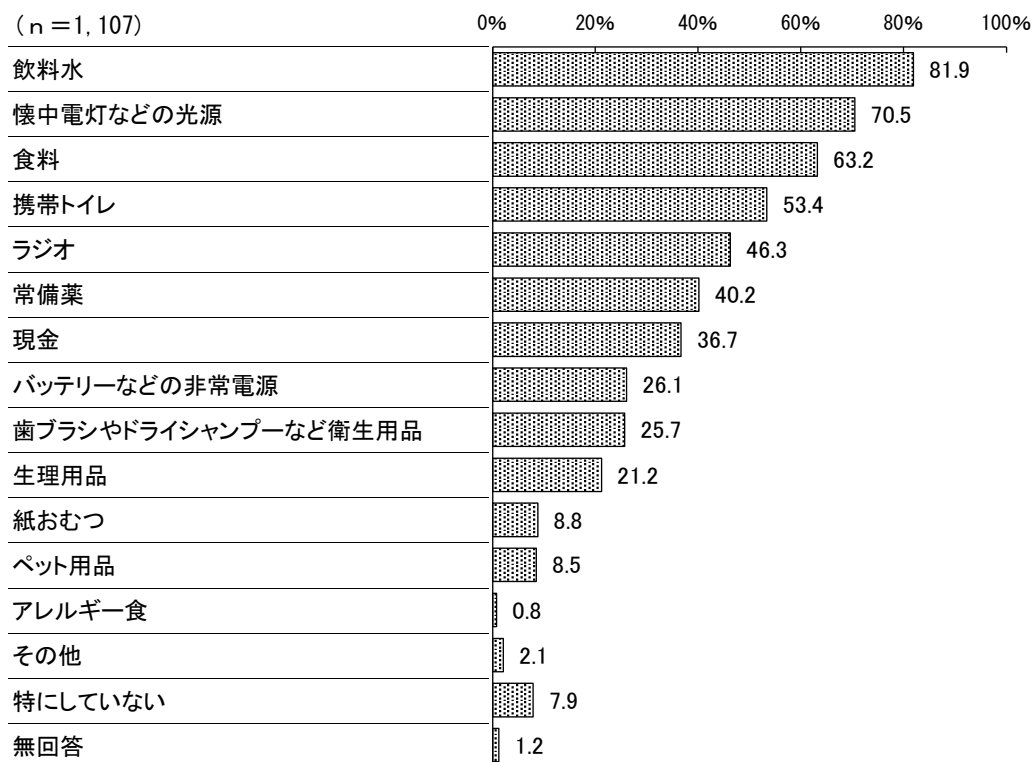


2 防災について

(1) 家庭で備蓄しているもの

◇「飲料水」が8割を超える

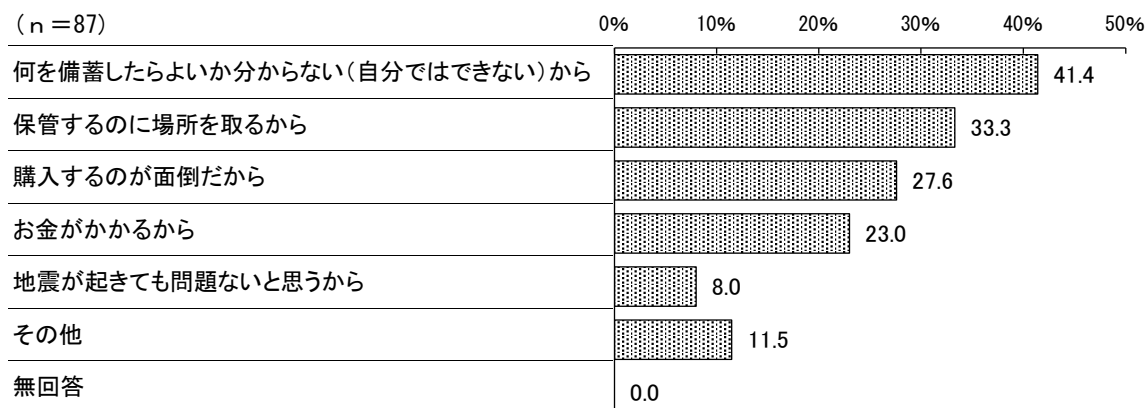
下記の選択肢から家庭で備蓄しているものについて聞いたところ、「飲料水」(81.9%)が8割を超えて最も多く、次いで「懐中電灯などの光源」(70.5%)、「食料」(63.2%)、「携帯トイレ」(53.4%)、「ラジオ」(46.3%)、「常備薬」(40.2%)などの順となっている。一方、「特にしていない」(7.9%)は1割近くとなっている。



(2) 備蓄をしていない理由

◇「何を備蓄したらよいか分からない(自分ではできない)から」が4割を超える

家庭での備蓄について「特にしていない」と答えた方(87人)に、備蓄をしていない理由について聞いたところ、「何を備蓄したらよいか分からない(自分ではできない)から」(41.4%)が4割を超えて最も多く、次いで「保管するのに場所を取るから」(33.3%)、「購入するのが面倒だから」(27.6%)などの順となっている。



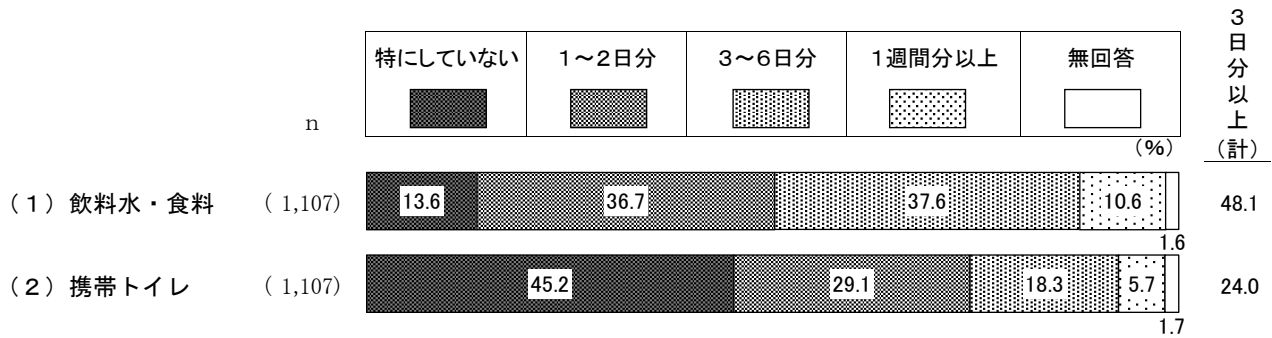
(3) 家庭での備蓄量

◇飲料水・食料は『3日分以上』が5割近く

◇携帯トイレは「特にしていない」が4割半ば

家庭での備蓄量を聞いたところ、(1) 飲料水・食料は、「3～6日分」(37.6%)が4割近く、「1週間分以上」(10.6%)が約1割となっており、この2つを合わせた『3日分以上』(48.1%)が5割近くとなっている。一方、「特にしていない」(13.6%)は1割を超えている。

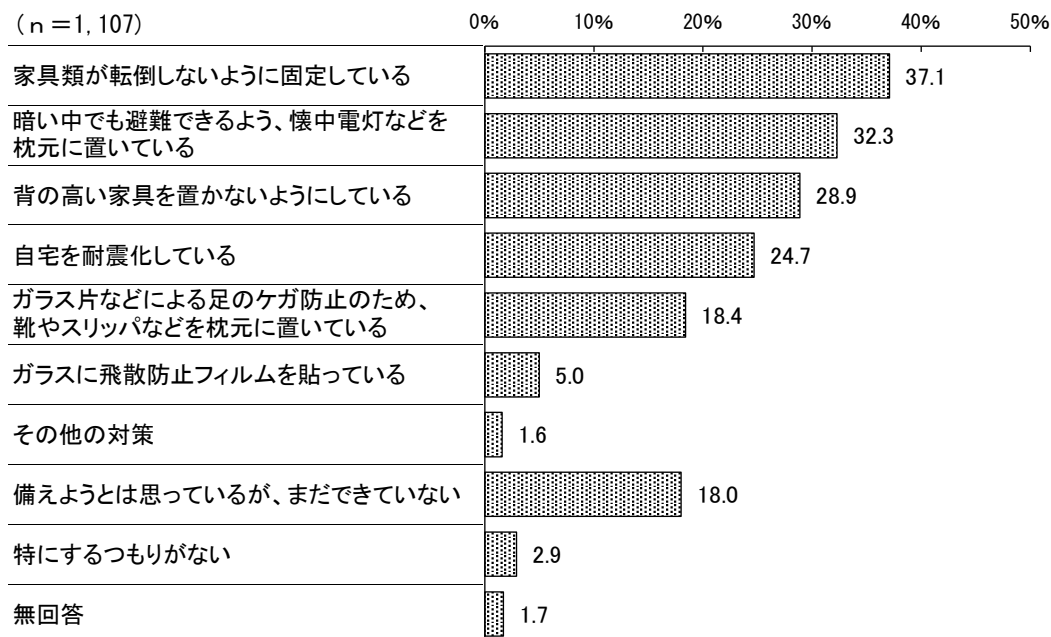
(2) 携帯トイレは、「3～6日分」(18.3%)と「1週間分以上」(5.7%)を合わせた『3日分以上』(24.0%)が2割半ばとなっている。一方、「特にしていない」(45.2%)は4割半ばとなっている。



(4) 実施している安全対策

◇「家具類が転倒しないように固定している」が4割近く

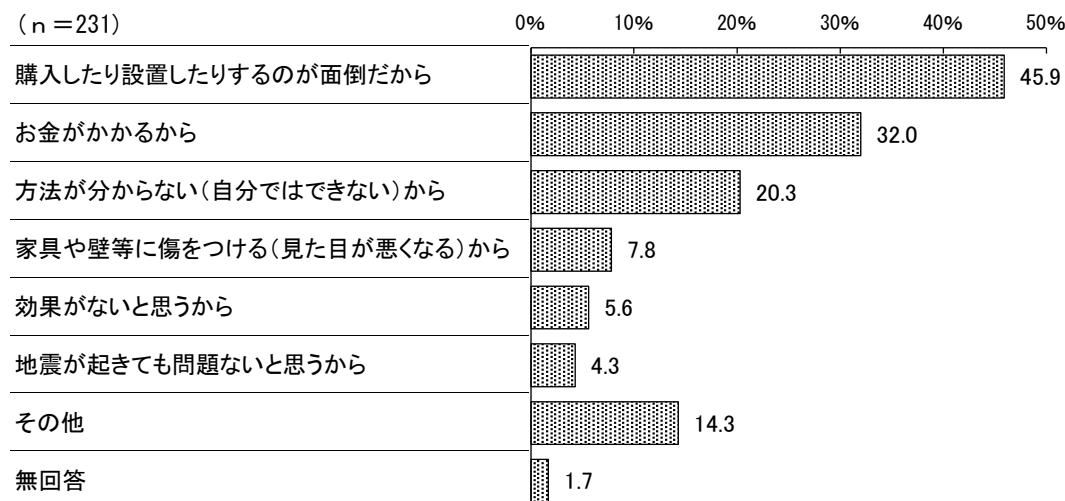
下記の選択肢から既に実施している安全対策について聞いたところ、「家具類が転倒しないように固定している」(37.1%)が4割近くと最も多く、次いで「暗い中でも避難できるよう、懐中電灯などを枕元に置いている」(32.3%)、「背の高い家具を置かないようにしている」(28.9%)、「自宅を耐震化している」(24.7%)などの順となっている。一方、「備えようとは思っているが、まだできていない」(18.0%)は2割近くとなっている。



(5) 安全対策をしていない理由

◇「購入したり設置したりするのが面倒だから」が4割半ば

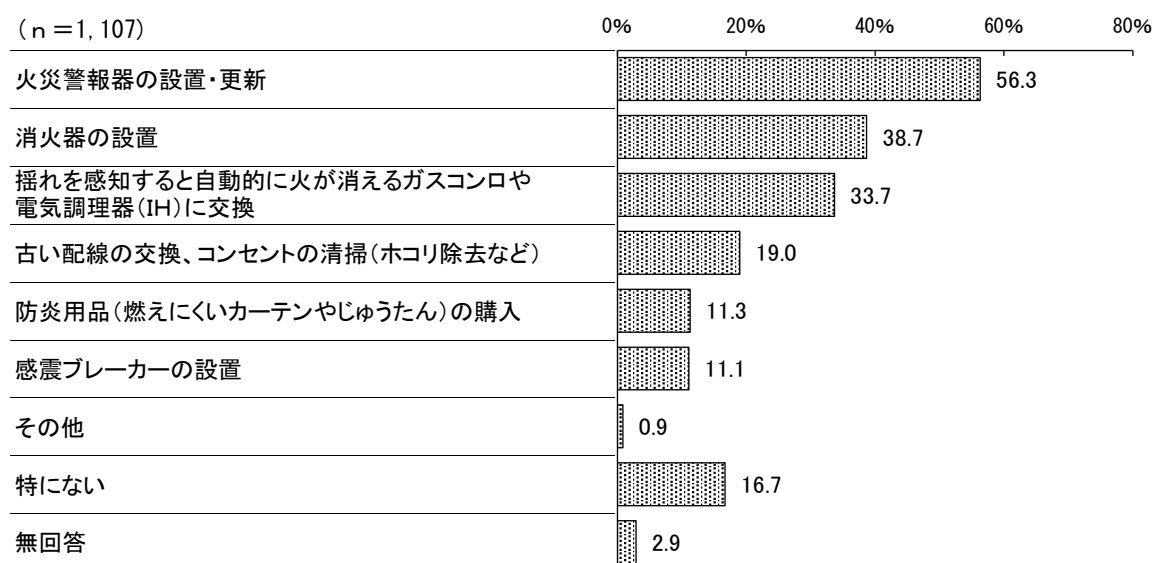
安全対策について「備えようとは思っているが、まだできていない」または「特にするつもりがない」と答えた方(231人)に、安全対策をしていない理由について聞いたところ、「購入したり設置したりするのが面倒だから」(45.9%)が4割半ばと最も多く、次いで「お金がかかるから」(32.0%)、「方法が分からない(自分ではできない)から」(20.3%)などの順となっている。



(6) 自宅で行っている火災対策

◇「火災警報器の設置・更新」が5割半ば

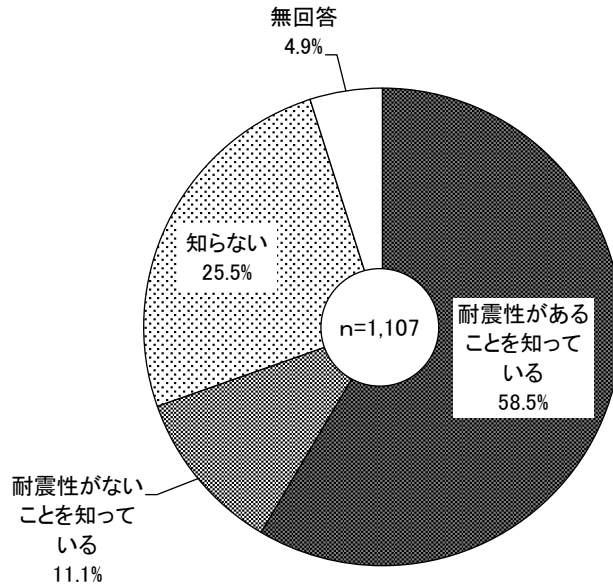
下記の選択肢から自宅で行っている火災対策について聞いたところ、「火災警報器の設置・更新」(56.3%)が5割半ばと最も多く、次いで「消火器の設置」(38.7%)、「揺れを感知すると自動的に火が消えるガスコンロや電気調理器(IH)に交換」(33.7%)、「古い配線の交換、コンセントの清掃(ホコリ除去など)」(19.0%)などの順となっている。一方、「特にない」(16.7%)は2割近くとなっている。



(7) 住まいの建物の耐震性の認知状況

◇「耐震性があることを知っている」が6割近く

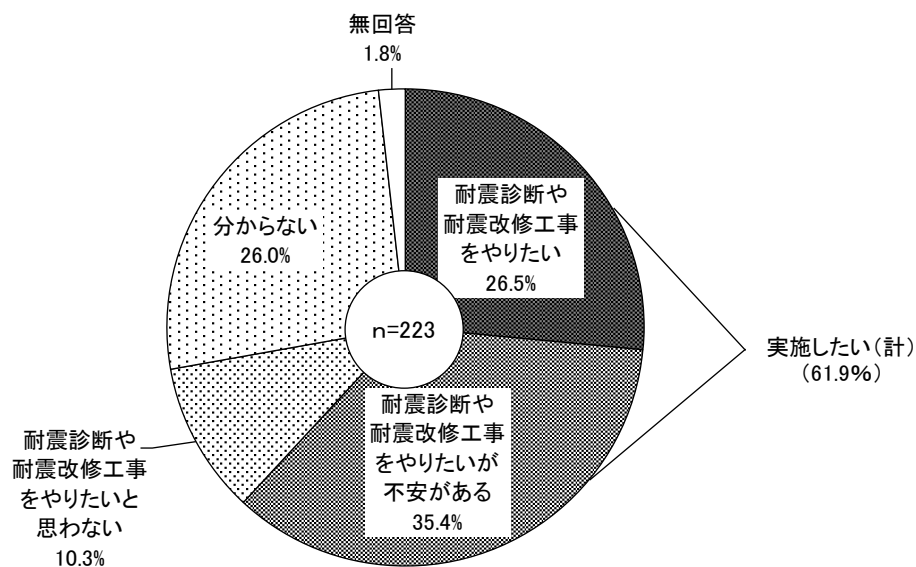
住まいの建物が耐震性のある建物かどうかを知っているか聞いたところ、「耐震性があることを知っている」(58.5%)が6割近くとなっており、「耐震性がないことを知っている」(11.1%)は1割を超えている。一方、「知らない」(25.5%)は2割半ばとなっている。



(8) 耐震診断や耐震改修工事の意向

◇『実施したい』が6割を超える

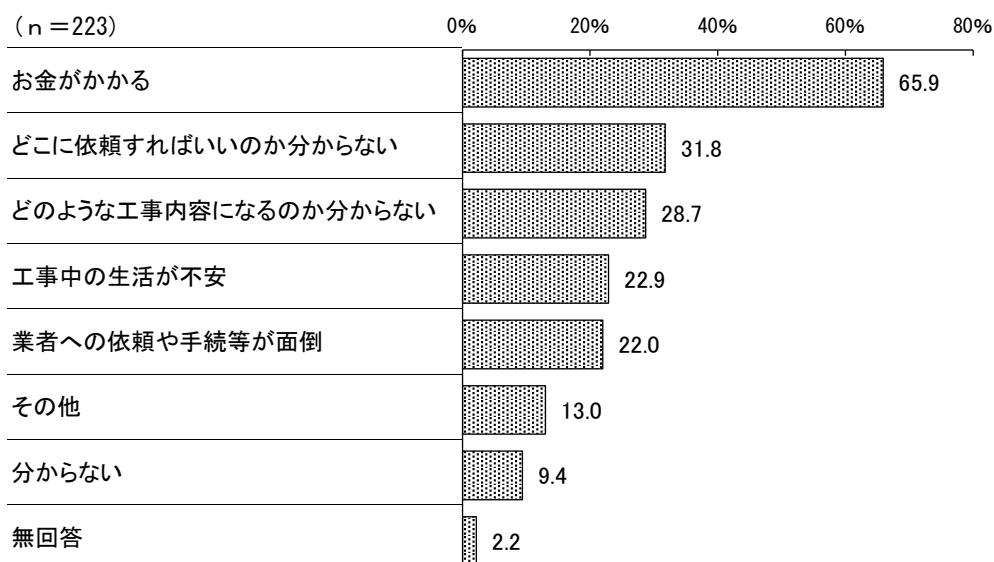
住まいの建物が耐震性のある建物かどうかを知っているかについて「耐震性がないことを知っている」または「知らない」と答えた方で、自己所有もしくはご家族が所有する住宅にお住まいの方(223人)に、耐震診断や耐震改修工事を実施することについてどのように思うか聞いたところ、「耐震診断や耐震改修工事をやりたい」(26.5%)が3割近く、「耐震診断や耐震改修工事をやりたいが不安がある」(35.4%)が3割半ばとなっており、この2つを合わせた『実施したい』(61.9%)が6割を超えている。



(9) 耐震診断や耐震改修工事を実施していない理由

◇「お金がかかる」が6割半ば

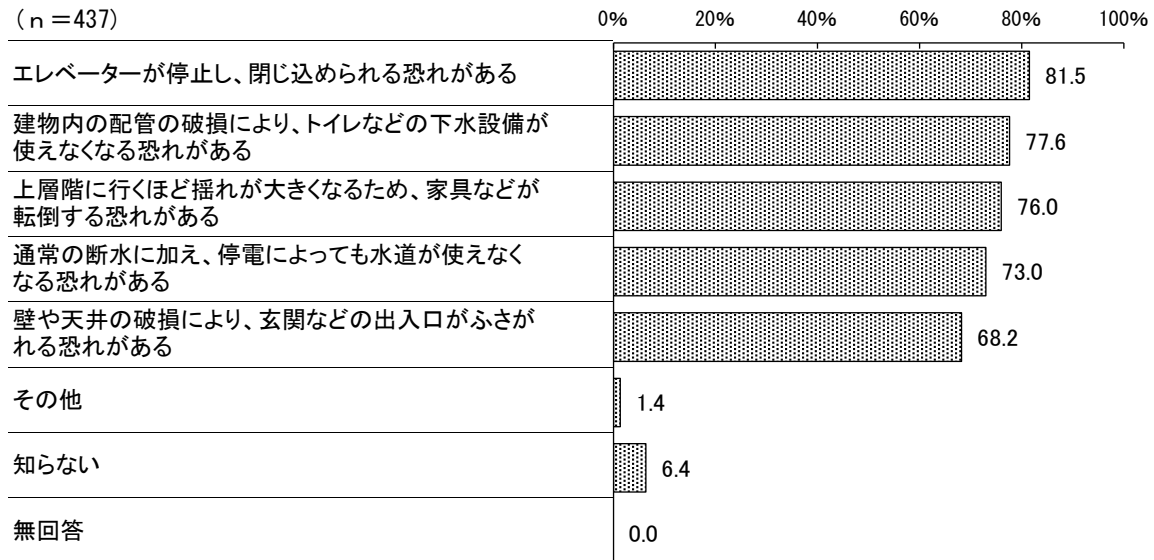
住まいの建物が耐震性のある建物かどうかを知っているかについて「耐震性がないことを知っている」または「知らない」と答えた方で、自己所有もしくはご家族が所有する住宅にお住まいの方（223人）に、耐震診断や耐震改修工事を実施していない理由を聞いたところ、「お金がかかる」（65.9%）が6割半ばと最も多く、次いで「どこに依頼すればいいのか分からない」（31.8%）、「どのような工事内容になるのか分からない」（28.7%）、「工事中の生活が不安」（22.9%）などの順となっている。



(10) 中高層住宅特有の被害で知っているもの

◇「エレベーターが停止し、閉じ込められる恐れがある」が8割を超える

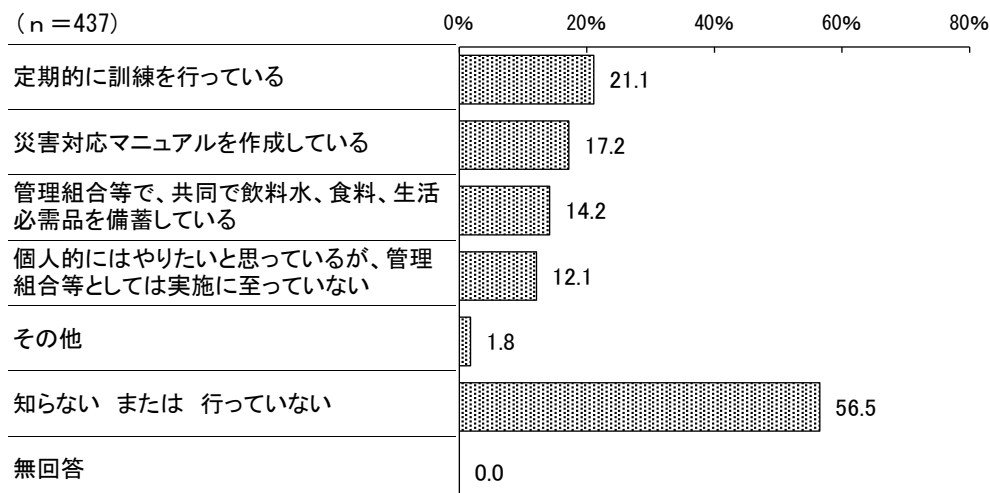
中高層住宅（3階建て以上のマンション・共同住宅）にお住まいの方（437人）に、中高層住宅特有の被害で知っているものについて聞いたところ、「エレベーターが停止し、閉じ込められる恐れがある」（81.5%）が8割を超えて最も多く、次いで「建物内の配管の破損により、トイレなどの下水設備が使えなくなる恐れがある」（77.6%）、「上層階に行くほど揺れが大きくなるため、家具などが転倒する恐れがある」（76.0%）などの順となっている。



(11) 住まいの中高層住宅で行っている対策

◇「知らない または 行っていない」が6割近く

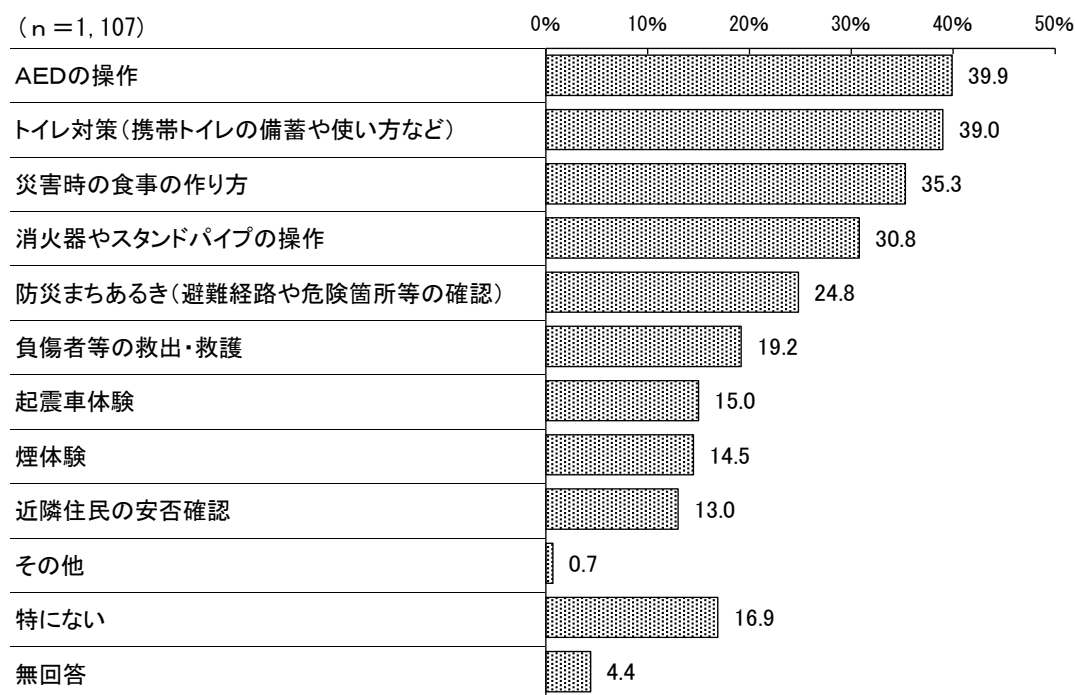
中高層住宅（3階建て以上のマンション・共同住宅）にお住まいの方（437人）に、住まいの中高層住宅で行っている対策について聞いたところ、「定期的に訓練を行っている」（21.1%）が2割を超えて最も多く、次いで「災害対応マニュアルを作成している」（17.2%）、「管理組合等で、共同で飲料水、食料、生活必需品を備蓄している」（14.2%）などの順となっている。一方、「知らない または 行っていない」（56.5%）は6割近くとなっている。



(12) 参加したい防災訓練

◇「AEDの操作」が4割

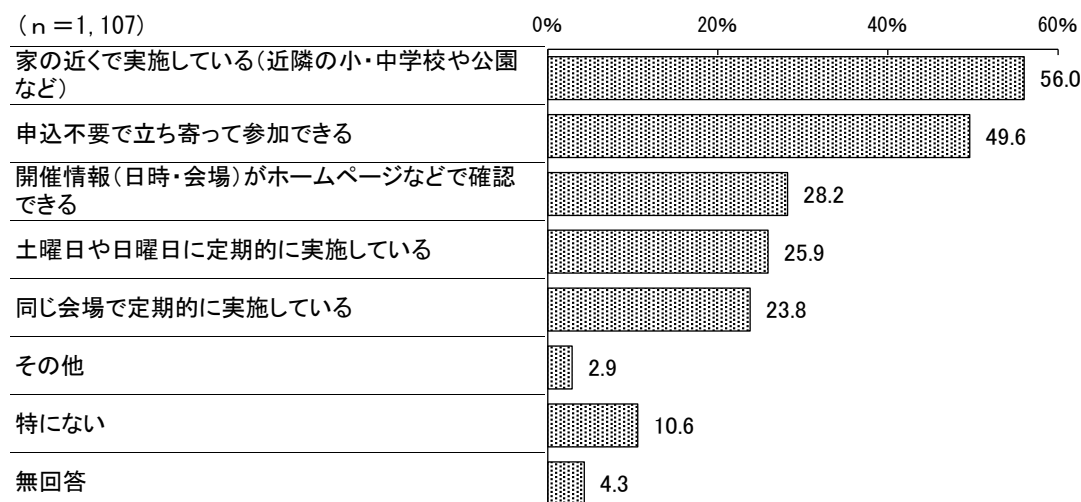
下記の選択肢から参加したい防災訓練について聞いたところ、「AEDの操作」(39.9%)が4割と最も多く、次いで「トイレ対策(携帯トイレの備蓄や使い方など)」(39.0%)、「災害時の食事の作り方」(35.3%)、「消火器やスタンドパイプの操作」(30.8%)などの順となっている。



(13) 防災訓練に参加しやすくなる条件

◇「家の近くで実施している(近隣の小・中学校や公園など)」が5割半ば

下記の選択肢からどのような条件であれば、防災訓練に参加しやすくなるかについて聞いたところ、「家の近くで実施している(近隣の小・中学校や公園など)」(56.0%)が5割半ばと最も多く、次いで「申込不要で立ち寄って参加できる」(49.6%)、「開催情報(日時・会場)がホームページなどで確認できる」(28.2%)、「土曜日や日曜日に定期的実施している」(25.9%)などの順となっている。

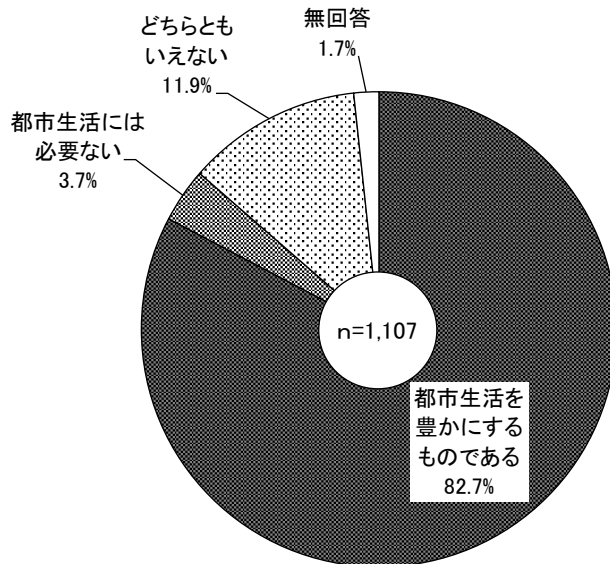


3 都市農業・農地について

(1) 都市農業・農地に対する考え

◇「都市生活を豊かにするものである」が8割を超える

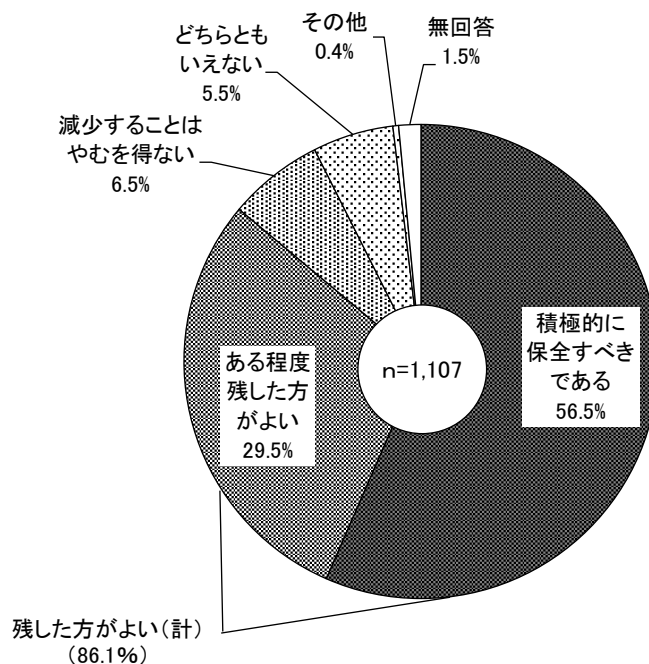
都市農業・農地に対する考えについて聞いたところ、「都市生活を豊かにするものである」(82.7%)が8割を超えている。一方、「都市生活には必要ない」(3.7%)はわずかとなっている。



(2) 農地の保全に対する考え

◇『残した方がよい』が8割半ば

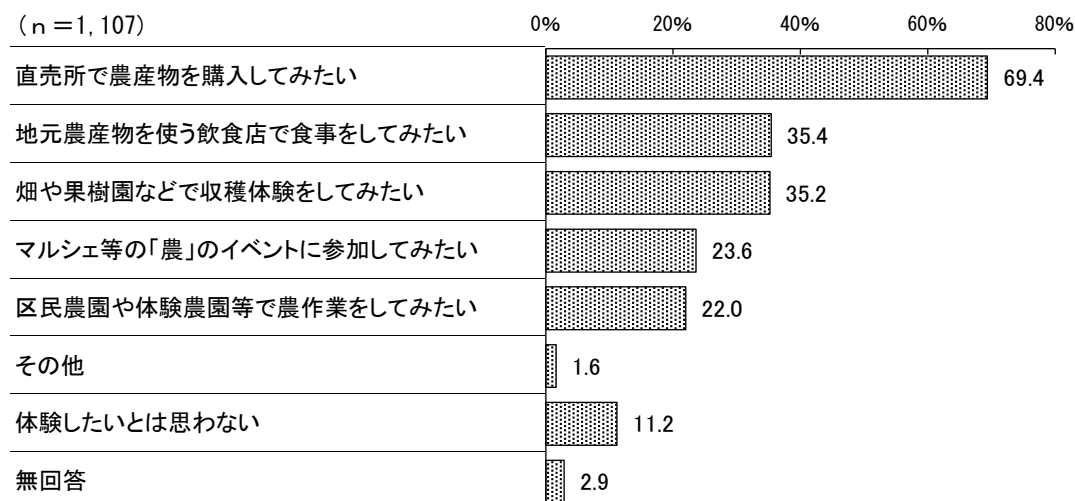
農地の保全に対する考えについて聞いたところ、「積極的に保全すべきである」(56.5%)が6割近く、「ある程度残した方がよい」(29.5%)が3割となっており、この2つを合わせた『残した方がよい』(86.1%)が8割半ばとなっている。一方、「減少することはやむを得ない」(6.5%)はわずかとなっている。



(3) 都市農業で体験したいもの

◇「直売所で農産物を購入してみたい」が約7割

下記の選択肢から都市農業で体験したいものについて聞いたところ、「直売所で農産物を購入してみたい」(69.4%)が約7割と最も多く、次いで「地元農産物を使う飲食店で食事してみたい」(35.4%)、「畑や果樹園などで収穫体験してみたい」(35.2%)、「マルシェ等の「農」のイベントに参加してみたい」(23.6%)などの順となっている。



(4) 都市農業で体験したことがあるもの

◇「直売所で農産物を購入したことがある」が7割近く

下記の選択肢から都市農業で体験したことがあるものについて聞いたところ、「直売所で農産物を購入したことがある」(66.8%)が7割近くと最も多く、次いで「畑や果樹園などで収穫体験をしたことがある」(24.5%)、「地元農産物を使う飲食店で食事をしたことがある」(19.3%)、「マルシェ等の「農」のイベントに参加したことがある」(12.6%)などの順となっている。

